

書物と私

文学部国文学科 特別招聘教授 沖森 卓也

私の祖父は古書、中でも和綴じの本、和本を専門 に取り扱う商いをしていた。そのため、私は生まれ た時から古書の世界に身を置いていた。祖父は古書 を仕入れに大阪や京都の市に定期的に出かける以 外は、ほぼ毎日、虫が喰った和綴じ本の糸をほどき、 折ってある紙を一丁ずつ丁寧に剥がしては、虫食い の跡に別の和紙を糊付けして繕っていた。その掛け 接ぎの和紙が白っぽくて目立つ時は、筆で色づけす ることもあった。繕った跡は字が欠けて読めないこ ともあったが、アイロンを掛け紙を伸ばし、表紙を 付けて再び綴じると、立派な和本となっていた。和 綴じ本には、日本語で書かれた和書と、漢文で書か れた漢籍・仏書があること、そして、筆で書かれた 写本と、印刷された版本があることも、幼い頃から 知っていた。私が生まれた頃、父はこの古書店を継 ぐつもりでいたが、しばらくして古書店の将来性を 案じ、手伝いを止め、新刊書を扱う店を別に商うよ うになった。それでも、祖父と父、また家族での会 話は古書をめぐっての話題が中心で、時には図書館 (特に、天理図書館) や国文学研究者にまで話がよ く及んだ。古書目録による注文販売であったので、 それを郵送するや次々に注文が来た時は、家中大忙 しで発送に追われるのであるが、その度に研究者や 好事家の名前を幾度も耳にし、そのうちに覚えてし

祖父は伊賀の郷土史に関する資料の収集に熱心で、中でも、ゆかりの松尾芭蕉を主とした俳諧と忍術にまつわる資料に力を入れていた。後に重要文化財の指定を受けることとなる『更科紀行』の芭蕉自筆本を手に入れた時は、大変な喜びようであった。商売で取り扱う和本は江戸時代の版本が中心で、和書は変体仮名が交じるので読みにくかったが、漢文は訓点付きの場合は楷書に近いので読みやすかった。今顧みると、小学生の頃には訓点に従って漢文を訓読し、中学生になると変体仮名もかなり読める

ようになっていたのであろう。十歳頃の私にとって 最も親しんだ本は、東京大学史料編纂所編『読史 備要』(昭和八年刊)であった。この本は年表、武 家一覧、花押、系図(俳諧・俳優・武術などを含む)、 諸家譜などの索引などからなる 2154 頁、厚さ七セ ンチに及ぶものである。ただ、やや小ぶりで軽いの で、子どもでも十分に扱えた。私は系図を見るのが とりわけ好きであった。どのような系譜でこの人物 がいるのか、その人物について十分に理解していた わけではなかったが、その関係を自分なりに想像す るのが楽しみであった。この書は日本史資料集であ るから、古いものに親しみを感じるのはこれに始ま るのであろう。

父の書店に並ぶ少年雑誌や漫画雑誌は小学校時 代はすべて読んでいたが、中学生になると、小説、 始めは石坂洋次郎、やがて太宰治や芥川龍之介な どを読むようになった。そして、中学生の終わり頃 であったか、父の本棚にあった西田幾多郎『善の研 究』をたまたま拾い読みした時、内容はほとんど理 解できなかったが、思考することの楽しさや喜びを 心底から感じ取れた。この書を理解しようとして、 デカルト以降の哲学書に始まり、経済学・社会学な どの社会科学関係に至るまで、ただただ乱読した。 読めば読むほどに、さまざまな物事を知ることで認 識が深まり、考えれば考えるほどに、より広く、か つ深い知識を希求し、読書に傾倒することなった。 しかし、読書の楽しみは、高校三年生の一年間受験 勉強に徹すると決めて、中断した。大学に入学して 上京した一年後、残念ながら、その燃えたぎるよう な情熱を取り戻すことはできなかった。あの時は、 未熟さゆえに自己陶酔していたにすぎなかったのだ ろうか。天井まで和本を棚に積んだ八畳間の隣で あった、かつての読書空間がそこにはなかったから だろうか。

読書と私

国際政治経済学部国際経営学科 准教授 小久保欣哉

私は幼少の頃から本を読む事が好きでした。親が教育者であったことが影響しているかも知れません。物心ついた時、実家には小さな図書館のようなものがありました。のちに知ったのですが、祖父の趣味で地下室まで作ったそうで、多様な分野の書籍が壁一杯の本棚に格納されていました。

最初に興味を持った書籍は『エジソン』です。私が幼稚園生から小学生になったばかりの頃でしょうか。今でも記憶しているのが書籍内に出てくる内容で、少年時代のトーマスエジソンは、異常なほどの知りたがり屋であり、当時の逸話としては、算数の授業中には「1+1=2」と教えられても鵜呑みにすることができず、「1個の粘土と1個の粘土を合わせたら、大きな1個の粘土なのになぜ2個なの?」と質問したりするといった具合で、授業中には事あるごとに「なぜ?」を連発し、先生を困らせていたという内容です。当時「なぜ?」を連発する癖が私にもあったのです。同じような人がいるものだなぁ、と偉人と知らず思ったものです。かの偉人と自分が同じようだと思ったことは今となってはとても恥ずかしいお話です。

それからは、色々な分野の書籍を購読しました。『シートン動物記』や『ファーブル昆虫記』に始まり、関心を持ったのは推理小説でした。江戸川乱歩著『怪人二十面相』は子供が夜に読むと怖い内容なのですが、次の展開が気になり読み耽りました。乱歩シリーズに出てくる名探偵の明智小五郎と小林少年から成る少年探偵団も懐かしい思い出です。推理小説では、アガサ・クリスティ著『そして誰もいなくなった』もお気に入りで、本書の最後の展開に驚きが待っていました。また、クリスティシリーズに出てくる名探偵のエルキュール・ポアロが好きでした。

中高校生時代にはいわゆる純文学、ヘルマンヘッセ著『車輪の下』、トルストイ著『罪と罰』、太宰治著『人間失格』、森鴎外著『舞姫』やツルゲーネフ著『初恋』、『片恋・ファウスト』などを読みました。進学、部活動、恋愛などに思い悩む思春期に大きな影響を受けました。

大学では経済学を専攻しました。中谷巌著『入門マクロ経済学』は教科書だったのですが、得ることが沢山ありました。マクロという大きな、俯瞰した視点から経済、社会、物事を捉えることが楽しいと

感じました。この書籍に刺激を受けて、イギリスの経済学者であったジョン・メイナード・ケインズの「ケインズ経済学」に強い関心を持ちました。ケインズ著『雇用・利子および貨幣の一般理論』は難解なのですが、一生懸命読み込み、理解に勉めました。ケインズに憧れてイギリスに短期留学し、留学先のロンドンからケンブリッジまで電車で行きました。ケインズが学んだケンブリッジ大学キングスカレッジを訪れ、現地の古本屋で原著 "The General Theory of Employment, Interest and Money." を購入しました。

大学院時代には、計量経済学を学びました。最初に手にとったのは白砂堤津耶著『例題で学ぶ初歩からの計量経済学』です。本書に掲載されているGDP 予測のための計量モデルを覚えるために、日本のGDP の実データを Excel に打ち込み、重回帰分析を行いました。GDP の予測にはマクロ経済学理論の「IS-LM 曲線」がわかりやすく、GDP の予測モデルを Excel の VBA に関する書籍を読みながらプログラミングして作りました。

社会人では経営コンサルタントになり、大企業の経営者、経営層、役職者や中央官庁の官僚の方々と仕事をするようになりました。親のような年齢の方々と経営について議論しなくてはなりません。平日は深夜まで業務があったため、週末は経営学書を読む時間に充て、足りない知識や経験を埋めていくという生活が何年も続きました。読んだ経営学書は1000冊を超えていると思います。今も経営学者として毎日少しでもと思い移動中も書籍や論文を読んでいます。幼少から今まで、これまで読んできた書籍が今の私を形成していると考えています。



思い出の上海図書館

文学部中国文学科 専任講師 髙橋 佑太

コロナ禍の影響で、予定していた科研費による海外図書館の調査が停滞している。調査の目的は、図書館が所蔵する貴重な古籍から、筆者の専門分野である書道に関するものを調査することであるが、いざ行くことができないとなると、行きたくなるのが人情である。そこで本稿では、中国で最も日本人に使いやすい図書館と思われる、上海図書館を紹介したい。

筆者と上海図書館との出会いは、大学院生時代に 遡る。当時から書籍の収集に熱をあげていた私は、 上海の福州路にある書店街に本の買い付けに、そして上海博物館の書画の展覧会を目的に、度々、上海 を訪れていた。神保町にも東方書店をはじめ、中国 関係の図書を扱う書店は多いが、購入する量が多い と、金額もかさむため、学生時代は目ぼしい博物館 の展示や史跡巡りをかね、安い航空チケットやユー スホステルを使って、頻繁に中国を訪れていた。

そうしたなか、恩師が執筆した、上海図書館の古籍に関する論文を読み、一度、古籍を見にいってみようと思い、足を運んだ。初めて訪ねる博物館や美術館を訪れるのと同様に、行ったことのない場所へ行き、見たことのないものを見ることは、心が躍るものである。

上海図書館は、北京の中国国家図書館に次ぐ、中国第二の規模の図書館で、1952年に設立し、後に上海科学技術情報研究所と合併し、1992年、現在も使用している新館が開館された。公式データによれば、2015年末時点で170万余冊の古籍を所蔵し、その約一割が善本といわれる貴重書である。これらは2階の古籍閲覧室の手前にある、「古籍出納台」で申請をすると、原物を見ることができる。いや、正確には原物を見ることができたという方が正しい。現在、古籍は「善本」と「普通本」に分類され、「普通本」については、申請すれば原物を実見することができるが、「善本」については、ほとんどが電子データ化され、古籍閲覧室のなかに設置されたPCでのみ閲覧することができる。

十年ほど前に調査で訪れた際は、当時、博士論 文のテーマであった人物の門弟らがまとめた書物を 実見した。当時は、制度上、「善本」を見ることが できたが、雨天は閲覧不可で、日を改めて、出直した記憶がある。そして、ようやくその書物を実見できた時の感動は今でも忘れられない。たとえ本人が書いたものでなく、門弟らによってまとめられた原稿であったとしても、原典を手にすることができた時の感動は、何ものにも代え難いものがある。活字ではなく、直筆で書かれたものを見ていると、古人と対話しているような気持ちになるから不思議である。まさに「読書は古人との対話」という言葉が思い出された。

さて、この調査では感動とともに新たな発見もあった。そもそも実見した古籍は、1990年代に出版された書籍によって初めて紹介され、活字で収録されたものであったが、実見によって、活字では収められない図示された部分があることが明らかになった。これは、当時、師から門弟へ、いかなる書教育がなされていたかがうかがえる一次史料であり、これによって論文の内容を深めることができた。まさに身をもって、「百聞は一見に如かず」を思い知った出来事であったが、今後、様々な資料が電子データ化されていく一方、古籍のようなものの原典を確認する必要は一層、増していくようにも思われる。

一般の人が図書館を使用する目的といえば、豊富な蔵書や個人では購入できないような高価な図書を使用することにあろう。これとは別に、大学図書館や大規模図書館は貴重なコレクションを有していることが多く、それらには著名人の直筆原稿や写本、旧蔵資料なども含まれる。このような資料についても近年、電子データ化が進んでおり、家にいながらPCやスマホで見ることができるものもあるが、実際に図書館へ足を運び、実見してみるのも面白いだろう。

さて近年、出版された U-PARL 編『世界の図書館から一アジア研究のための図書館・公文書館ガイド』(勉誠出版、2019)は、アジアを中心に世界の図書館について紹介している。大学院生などの研究者向けの書籍でもあるが、現地の図書館ガイドの側面もあるため、コロナ禍が収束し、海外の図書館を実際に利用してみたい方は、是非、参照されたい。

「読書のとびら」を開けて

国際政治経済学部国際政治経済学科 専任講師 関沢 修子

本を読むことは好きだが、「趣味は読書です」ということには少々抵抗がある。節操のない雑読派であるので、面白そうと思った本を手当たり次第に読んでいる行為を趣味と称するのは憚られるからである。

私は人口が十数万人の地方都市で生まれ育ったが、小さい頃は子どもの足で行ける距離には本屋がなく、読書といえば家にあるおさがりの本を適当に選んで読むしかなかった。国語の教員であった実母が選んだのであろう、自宅にあったのは「世界名作童話全集」や「岩波ようねんぶんこ」などであった。良書であったが、自分にとって興味のない内容のものも多々あり、本を読むことはそれほど好きではなかったように思う。

しかし、小学校高学年になる頃、学校に隣接して新しく公共の図書館ができた。小さな美術展などを開くことができるスペースを併設した三階建ての立派な建物で、蔵書数も小学校の図書室とは桁違いであった。これをきっかけに、自分で自分の読みたい本を選ぶという読書のたのしみを知ったように思う。最初は児童文学や漫画を読みに通っていたが、やがて大きな本棚のあいだを歩きながら気になった本を自由に手に取ってみるようになった。開いた本の内容が小学生には理解が出来なくとも、本のなかに自分の知らない世界があることは純粋に楽しく感じられた。

その後小学校の隣にたつ中学校に進んだので、この図書館との付き合いは長く続くことになった。国語の教科書に載っていた作家の作品を追うこともあれば、理科実験の本を読んだり、ノンフィクションや美術書などに手を出したりすることもあった。そういったなかで法学の名著に出会い人生が変わった…ということはなかったのだが、それでも、この時期にさまざまなジャンルの本と出会えたことは現在の自分の礎のひとつとなっている。高校に進学する頃には非常に読書家の友達もでき、面白いと思う本を貸し借りすることも増えた。自分の興味関心によ

るだけでは出会えない本を知ることができたことも よかったが、互いに感想を言い合うなかで他者との 感性や価値観の違いを実感する機会を持つことが できたことが非常に良い経験であったと今になって 思う。

大学生になると、勉強のために専門書を読む機会 が増えたが、法律書は難解で読み進めるのに苦労し た。私が学部生だったころの法学部の講義というの は、レジュメなどなく、仮に配られても話の大枠が 示されているだけで、基本的に講義で話される内容 をその場で理解しながらノートをとるというものが 殆どであった。当然聞き洩らしたところや理解不能 だった箇所がでてくるので、大学の図書館でその法 律に関する専門書を何冊か読み調べて補完する必 要がある。ところが、実定法においては、法律の条 文内容をどう解釈するか、ある問題についてどのよ うに考えるべきか、論者によって見解が異なるとい うことがある。ひとつの法律について複数の書物を 借りたら書いてあることが全然違うという状況に、 当時大いに混乱したものだった。そういったときに は、大学の図書館の法律以外のコーナーを徘徊し、 別の学問の深淵な世界を少しだけ覗きこみ、そして また戻ってくるということをした。特段意味のある 行為ではなかったが、自分の知らない世界がたくさ んあるのだということを知るだけで、少し気が晴れ たのかもしれない。

現在は、研究のために読まなければならない本が増えるにつれ、個人の愉しみのために本を読む時間は減ってしまっているが、それでも何かしら興味をおぼえる本を買っては積んでいる。自分にとって本を読むはどういうことか。それは新しい世界の扉を開くことである。学問的に新たな知見を得ること目的に専門書を読むときも、息抜きに流行りの本を読むときも、本を開くとそこには知らない世界がひろがっている。私は単純な人間なので、そうして新しい世界に出会えることをなにより面白いと思うのである。

コロナ禍における図書館の対応

2020年1月下旬に日本で新型コロナウイルスに関する報道がされてから約9か月が過ぎました。今だ終息の見えない新型コロナウイルス。2020年4月、大学の入学式・ガイダンス・新入生歓迎会等の行事は全て中止せざるを得ませんでした。春セメスターはオンラインでの授業展開となりました。図書館は、5月中旬から大学院生・大学生を対象に図書貸出しの配送サービスを開始し、6月上旬にはオンライン授業に対応できるようデータベース・電子ジャーナルを学外から利用できるようにしました。利用可能なデータベース・電

子ジャーナルは、朝日新聞 聞蔵 II ビジュアル・Japan Knowledge Lib・MAGAZINEPLUS・日経 BP 記事検索サービス・日本経済新聞 日経テレコン 21・読売新聞 ヨミダス歴史館・東洋経済デジタルコンテンツ・ライブラリー・韓国学術・学会誌電子ジャーナル DBpia 人文社会系パッケージ・Taylor & Francis SSH Library 社会学・人文学系パッケージ・中国学術文献オンラインサービス CNKI 文史哲輯コレクション・Science Direct コレクション・JSTOR Arts & Science I・II Collection 等です。また、同月に論文検索に有益なリンクリゾルバを導入しました。

九段図書館に書籍を60秒で殺菌できる書籍消毒機を設置し、カウンター前には三密を防ぐための透明シートを垂らし、ソーシャルディスタンスを保つため座席の指定等開館に向け準備し、10月5日(月)から、大学院生・大学生・科目等履修生を対象に予約による館内利用を開始しました。



新たに設置された書籍消毒機

「大西巨人関係資料」の公開



東京古書会館会場

作家・大西赤人氏から本学に寄託された 「大西巨人関係資料」を「二松学舎大学附 属図書館資料センター」にて整理し、その 一部を公表しました。

2020年1月28日(火)10時30分、本学九段1号館1103会議室にて、江藤茂博学長、押野洋図書館長、山口直孝文学部教授が出席し、「大西巨人資料公開」の記者会見を行いました。その後、企画展「作家・大西巨人一「全力的な精進」の軌跡」を、2月4日(火)から3月14日(土)まで

の期間、二松学舎大学資料展示室にて、また 2 月 21 日(金)から 3 月 14 日(土)までの期間、千代田区神田小川町の東京古書会館 2 階情報コーナーにて開催し、これまでほとんど公表されていない大西巨人の草稿、原稿、ゲラ類、執筆資料、蔵書、書簡、写真等多数展示しました。2 月 29 日(土)に予定していました講演会「父親としての大西巨人講演者:大西赤人氏」は、新型コロナウイルス感染防止の観点から延期としました。今後も山口直孝教授を中心とする研究グループが大西巨人の資料を整理し、研究成果を公開していきます。

向島ゆかりの文人をたずねて

浅草からスカイツリーを正面に見て、隅田川にかかる言問橋を渡った先には、多くの文人・墨客が居住した町があります。この町は、1937年4月から『東京朝日新聞』に連載された永井荷風の小説『濹東綺譚』の舞台として描かれた向島です。今回はこの下町情緒溢れる向島周辺の明治から昭和の文学史跡を紹介します。



①堀辰雄ゆかりの地(墨田区向島1丁目7-6)

堀辰雄(1904~1953)は2歳の時に母に連れられて向島小梅町に住む叔母の家に身を寄せ、母の結婚を機に向島中ノ郷町に移り住んだ。その後、大洪水で被害を受けて新小梅町へ転居し、府立第三中学校(現・都立両国高校)に通う。室生犀星の紹介により、同校の先輩である芥川龍之介を知り、文学的影響を受けた。1924年に現在の隅田公園隣の新築の家に引っ越した。人生の過半を向島で過ごした堀辰雄は、『幼年時代』に墨堤や近隣の寺社の様子を書き記している。

②佐多稲子旧居跡(墨田区向島2丁目3-5)

佐多稲子(1904 ~ 1998)は、1915 年に向島小梅町に住む叔父を頼って一家で上京したが、貧窮のため学校を辞め、その後は向島のメリヤス工場などで働いた。自叙伝『私の東京地図』には、長らく暮らした向島のことが書かれている。

③森鷗外住居跡(墨田区向島 3 丁目 38-9)

1872 年 10 歳の時に父と上京した森鷗外(1862 ~ 1922)は、初めは向島小梅村の旧津和野藩主亀井家下屋敷に住み、翌月からは近くの借家で暮らし始めた。その後は上京した家族とともに近くの 300 坪の家を購入して移り住み、この向島の家を森家では「曳舟通りの家」と呼び、1879 年まで暮らした。最初の号「牽船居士」は、近くを流れていた曳舟川にちなんでおり、後の号「鷗外」は、隅田川の都鳥にちなんだものと言われている。

④淡島寒月旧居跡(墨田区向島 5 丁目 3-5)

井原西鶴を再評価し、幸田露伴や尾崎紅葉を文壇に紹介した淡島寒月(1859 ~ 1926)は、1893 年頃に父・淡島椿岳が使っていた弘福寺境内の隠居所を「梵雲庵」と名付け、悠々自適な生活を送った。漱石の『我が輩は猫である』に登場する水島寒月という名前は、淡島寒月から採ったと言われている。

⑤正岡子規仮寓の地(墨田区向島 5 丁目 4)

「向じま 花さくころに 来る人の ひまなく物を 思いける哉」という歌を詠み、向島周辺の景色を好んだ正岡子規(1867 ~ 1902)は、長命寺境内の桜もち「山本や」に寄宿し、自ら「月香楼」と名付けた。

⑥依田學海旧居跡(墨田区向島 5 丁目 40-14)

江戸幕府留守居役を務めた漢学者で、森鷗外の師でもある依田學海(1834~1909)は、向島の隅田川の土手を臨む須崎村 142 に居を構え、近くの向島百花園にも頻繁に足を運んだ様子を『墨水二十四景記』に書いている。

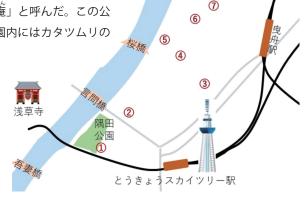
⑦吉川英治旧居跡(墨田区東向島 1 丁目 24-1)

吉川英治(1892~1962)は1917年、25歳の時に花街で知り合った赤沢やすと寺島村で同棲を始めた。その後は、『剣難女難』や『鳴門秘帖』で文学作家としての地位を確立した。

⑧墨田区立露伴児童遊園(墨田区東向島 1 丁目 7-11)

幸田露伴(1867~1947)は、1893年に長兄を頼って寺島へ来住。幾度となく住まいを変えた露伴は、家を持たないカタツムリに擬して自宅を「蝸牛庵」と呼んだ。この公園は墨田区内で3番目に住んだ「第二蝸牛庵」があった場所で、園内にはカタツムリのオブジェも置いてある。





国立国会図書館「図書館向けデジタル化資料送信サービス」利用あれこれ

「季報」106号で紹介しました『国立国会図書館「図書館向けデジタル化資料送信サービス」』の開始から1年余りが過ぎました。 多くの方にご利用いただいております。このサービスをより良く活用していただくために気が付いた点をいくつか挙げてみたい と思います。

その1 資料の探し方と複写申請

「国立国会図書館デジタルコレクション」で資料を探すときに公開範囲(図 1 の赤枠)を選択する必要があります。左から A: インターネット公開、B: 図書館送信資料、C: 国立国会図書館内限定となっています。A でヒットした資料は、ネット環境があればどこでも



閲覧できますから、各自 PC を利用して複写ができます。B でヒットした資料は、国会図書館か当館のように「送信サービス」を受けられる図書館であれば閲覧できます。この場合、所定用紙に必要事項を記入して申請してください。C は国会図書館の端末のみで閲覧できます。当館で該当する資料を探す場合には、図 1 赤枠内のように、A・B にチェックを入れて探すと良いと思います。

その2 見えにくいことがあります

古い書籍で、状態が良くないものの複写を申し込まれたときのことです。画像ではカラーの状態で見えていたのですが、複写をモノクロで申し込まれ、いざ印刷してみると文字が不鮮明だったことがありました。このようなこともありますので、白黒印刷で文字が見えにくい場合には、再度カラーで申し込んでください。

その3 全頁複写はできません

「季報」106号の記事の、「利用要領」にも記してありますが、複写できるのは著作権の範囲内(図書であれば全体の半分以下)です。図書まるまる1冊複写してほしいというお申し込みもありましたが、そのご要望にはお応えできません。著作権の印刷範囲につきましては、次のページを参照してください。

その4 雑誌・紀要もあります

国立国会図書館のデジタル資料には、図書だけでなく雑誌・紀要もあります。CiNii で雑誌・紀要を検索したときに、図2のように「電子リソースにアクセスする」という文字がある場合があります。この表示をクリックすると「国立国会図書館デジタルコレクション」が開き、「この資料は図書館送信参加館内の指定端末でログインした場合のみ閲覧できます。……」という文章が現れます。本学図書館が所蔵していない紀要に掲載されている論文を入手するには、その紀要を所蔵している図書館に依頼して、該当する論文を複写してもらうこととなります。しかし、国会図書館の送信サービスを利用して短時間に論文を入手することもできるわけです。入手したい論文の掲載誌がわかりましたら、この送信サービスを利用できるかどうか、調べてみてはいかがでしょうか。

以上、サービス開始から1年余りの間に実際にあった事例を踏ま えて、本サービスに役立つ情報のあれこれを述べてみました。これ らの点を参考にして、これからもこのサービスをご活用ください。



図書館と著作権 ーコピー機利用と複写範囲ー

学生A君と図書館スタッフBさんが何やら話をしています。ちょっと聞いてみましょう。

- A:新型コロナウイルスの影響で今年度は図書館ツアーができませんでしたね。館内利用で注意することを一 つ挙げるとすると何でしょうか。
- B:そうですね。館内のコピー機では図書館の本しか複写できないというのをご存じですか。時々、私物の ノートなどを複写しようとする学生さんを見かけますね。
- A: あ、そうですね。でも、どうしてできないのでしょうか?
- B: それは著作権法に触れるからです。
- A:著作権法ですか。どんな内容ですか。詳しく教えてください。
- B:わかりました。著作権法の第31条に「図書館等における複製」についての規定があります。著作物を複製 できる条件が謳われています。コピー機についてはその第一項が該当します。そこには
 - 一 図書館等の利用者の求めに応じ、その調査研究の用に供するために、公表された著作物の 一部分(発行後相当期間を経過した定期刊行物に掲載された個々の著作物にあつては、その 全部。第三項において同じ。)の複製物を一人につき一部提供する場合

とあります。簡単にいうと、研究目的の場合にのみ、1人1部だけ資料の一部分を複写することができ るということです。図書館のコピー機はそのために設置されていますので、私物のノートはこの項目の 範囲外となるからです。

A:コピー機の脇に「ご存知ですか?著作権」のポスターが貼ってありますね。「利用規定」のプリントにも 記載がありましたね。

ところで条文にある「著作物の一部分」とは、どの程度ですか?

- B:資料の種類によって違いますね。例えば、一 「著作物の一部分」 般の図書は、全体の半分以下です。地図や事 典など物によって異なります。
- A:なるほど。一口に一部分といっても、いろいろ ありますね。では、新聞の一部分はどの程度 ですか?
- B:個々の記事の半分以下になります。ただし、 発行後相当期間を経過した定期刊行物は、 個々の記事全部を複写できます。

図書(論文集など)	個々の論文等の半分以下
短篇集	個々の作品の半分以下
地図 (1枚もの)	全体の半分以下
地図帳	個々の地図の半分以下
辞書	全体の半分以下
事典	個々の項目の半分以下

- A:「発行後相当期間を経過した定期刊行物」の相当期間とはどれぐらいですか?
- B:「発行後相当期間」とは、基本的には次の号が発行されるまでの期間です。新聞ですと翌日には記事全部 が複写可能となります。週刊誌などの雑誌も同じように次の号が刊行されると、記事全部の複写が可能と なります。発行後3か月を経過しても次号が発行されないものは、3か月を経過すれば複写が可能となり ます。また、大学等が発行している紀要については、各大学図書館が受け入れをした時点で「発行後相当 期間」が経過したとみなされることになっています。
- A:これから著作物を複写する際は、注意してコピー機を利用します。

本学教職員著書紹介

『入門 平安文学の読み方』 (新典社選書:96)

保科 恵著 (新典社、2020年4月10日発行) B6 判 206頁・1,500円+税 ISBN:9784787968463



文学作品は言葉によって綴られる。となれば、文学作品を読む上で、本文として形象された表現に対する 省察を缺かすことはできない。伊勢物語の男が「月やあらぬ」と詠った時、そこに前年に見た月と、今眼前 にある当年の月とを対比する意図があったのかどうか、そのことに対する答えは伊勢物語という作品の本文 の表現の中から導き出されるのでなければならず、往々にして援用される、紀貫之による「その心余りて言葉足らず」という古今仮名序の評語に依拠して理解するようなことなどあってはならない。言うまでもなく これは一例で、作品の読解は、遍く作品の本文の表現を解析することによって行なわれるべきものである。

むろん文学作品において、すべての事象が本文として明示されるわけではない。周知の場所や日常茶飯の 出来事などは、何ら説明を要さずに読者が理解することが可能なのだから、敢えて本文として記述しないの が自然であり適当である。すれば読者に冗長散漫な印象を与えることを免れえないし、ひいては円滑な伝達 を阻碍することにもなりかねない。要不要が取捨された結果として、作品の本文が成立しているのである。

平安文学の荷担者、すなわち作品を書き、それを読んでいた人びとは、いずれも平安時代の京都に生活する貴族階級の人物である。地理的にも社会的にも極めて狭小な範囲に限定されているから、作者と読者との間で知識・教養が十全に共有されている。本文として明示されないのは、そうせずとも読者が諒解しうることを前提に不要なものが捨象されただけのことであって、そこには省略という概念すらなかったであろう。

だが、そのことは、平安時代の文学を、その本来の荷担者と価値観を共有することのない現代の読者が読む際の重大な支障となりうる。平安文学は、平安時代の読者に享受されることを想定して制作されている、というよりも、それ以外の読者の存在を想定していない。それは現代の文学でも同様ではあろうけれども、荷担者の多様さにおいて当時と現代とには格段の差異があるから、平安文学を現代の読者が受容しようとする時に、明示されていない多くの文言や解説で本文を補完することなしには理解しえない場合が、しばしばある。古典の文章は難解で日本語は非論理的な言語だという妄想は、こうしたことを要因として発生する。

現代人の見地からは書かれていると認識できないことでも、当時の読者には書かれているのと同然のことが数多くある。遺忘してはならないのは、現代人が平安文学を享受するには、当時の読者が作品をどのように読んでいたかを闡明するのが必須だということである。それを実現するには、本文の表現を解析することの外に方途がない。古語を現代語に置換しさえすれば古典が理解できるわけではなく、明示的に表記されていないことをも含めて読解しなければならない。本文そのものを平安時代の人びとの思考に寄り添って読み進めて行かねばならぬ、という当然の帰結ではあるけれども、それが作品に近づく最も有効な方法である。

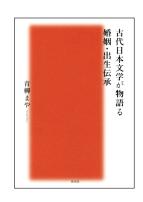
書籍の内容を縷述するのは著者の任ではない。加之、余人の与り知らない私的な胸懐を吐露するのも無用のことだから、文学作品を読む前提として銘記しておくべきと思量する私見の一端を摘記して、字義通りの小著の紹介に代替する。ただ、断片的であるにしても、本書にそういう問題の要諦を聊かなりと記述しえたのではないかという自負も、僅かにはある。当欄の趣意を弁えない文章を物したことを陳謝して擱筆する。

文学部国文学科 非常勤講師 保科 恵

本学教職員著書紹介

『古代日本文学が物語る 婚姻・出生伝承』

青柳まや著 (花鳥社、2020年3月31日発行) A5 判 396頁・9,500円+税 ISBN:9784909832078



拙著『古代日本文学が物語る婚姻・出生伝承』は 2016 年に二松学舎大学大学院に博士学位申請論文として提出した「上代文学における婚姻・出生伝承に関する研究」を書籍化して刊行したものである。この書では、古代文学に記載された婚姻・出生伝承を広く見つめるために、『古事記』、『日本書紀』、各国『風土記』、『日本霊異記』の伝承及び、『万葉集』巻第 16 載録の婚姻関連歌について取り上げた。そして、それぞれの伝承が記された意図や、その伝承が果たす役割・機能等について論じ、婚姻・出生伝承を鳥瞰的な視点から見つめ、歴史的な流れの中でとらえている。

取り上げた文献のうち、『古事記』と『日本書紀』はほぼ同時期に完成した歴史書であるが、二つの書では、同じ神や天皇の婚姻・出生伝承であっても、大きく記述の異なる場合が複数見られる。

本書で取り上げた伝承について、一例を挙げると、第一章第一節で取り上げた山の神オオヤマツミは、『古事記』においては男神であることが明記されているのに対して、『日本書紀』神代紀(第九段本書)では、女神とされているなど、二つの書の中で、その性別が反対となっている。このオオヤマツミについては、その出生の仕方も『古事記』と『日本書紀』では大きく異なっており、『古事記』がオオヤマツミをイザナキとイザナミの間に生まれた子とするのに対して、『日本書紀』神代紀の本書にはオオヤマツミの系譜が記されず、第五段一書第七および一書第八において、イザナキによって殺されたカグツチの身体の一部から化成したことが記されているのみである。本書においては、このような二つの書における記述の差異に注目して、それぞれの伝承が記された意図や、反対に記されなかった意図について論じた。

また、オオヤマツミは天孫ホノニニギ(アマテラスの孫)の妻となったコノハナノサクヤビメの親神としても知られるが、『古事記』は同じオオヤマツミの娘にコノハナチルヒメという女神がいると記し、コノハナチルヒメをスサノオの息子であるヤシマジヌミの妻として、オオクニヌシにつながる出雲系の神々の系譜に取り込んでいる。『古事記』がスサノオの息子とコノハナチルヒメの婚姻を必要としたのは、皇統の血筋に花が「サク」=「生・栄」、出雲の血筋に花が「チル」=「衰」という対照的な名称を持つ女神を配すことで、オオクニヌシによる地上統治を否定し、アマテラスの血筋である天皇の王権を支えるためであると考えられる。コノハナチルヒメは『日本書紀』には全く登場しない神であることから、この神は、広く伝承、認知されていた神ではなく、コノハナノサクヤビメの対として、『古事記』によって新たに作り出された神であろう。

このように、婚姻・出生伝承は、文字化された神話において、編者やその書の要求する世界観や歴史意識を構築するのに、大きな役割を果たしている。そして、婚姻・出生によって紡ぎだされる系譜は、王権神話の屋台骨として機能しているのである。

成立年でいえば、712年に成立した『古事記』は、720年に成立した『日本書紀』よりも古い成立であるが、オオヤマツミやコノハナチルヒメの婚姻・出生伝承を見ていくと、『日本書紀』よりも『古事記』の方がより高度に整備された伝承を含んでいる場合があることが確認される。このような「紀前記後」説が肯定されるべき点については、本書の第一章第二節で取り上げた天孫の母の考察などでも詳しく触れている。

一方の書に注目しただけでは、その書の独自性は見つけにくい。『古事記』と『日本書紀』は全く無関係の書ではなく、 それぞれの書が構築しようとする世界観は、伝承の差異の中にこそ現れていると見るべきであり、二つの書は相互補 完的に読むべきだと考える。

個々の文献は他の文献と無関係に成立したのではなく、前時代や同時代の世界観や文献とのつながりの中で成立しているのである。

文学部国文学科 非常勤講師 青柳まや

本学所蔵資料紹介

十年刀筆添蛇足

卷詩書坐虎皮

二島中洲

港行出世后皮局 少ち及尺を多時成送は何時時 三花安食自治 K 好魚運熟食されびる公事局 心 100 中的江文里 E 核 →年 つるせ

托迹城中下絳帷

隱居何必向山移

隠居して何ぞ必ずしも山に向ひて移らん 迹を城中に托して絳帷を下す

十年の刀筆 巻の詩書 蛇足を添へ 虎皮に坐す

古松 頑石 園池を築く

浄几

明窗

塾舎に連なり

古松頑石築園池 浄几明窗連塾舍

知らず 咫尺に市声聒しきを

風は唔咿を送りて断続して吹く

明治 13 年頃の校舎を復元し た漢学塾二松学舎「本塾」の ジオラマを附属図書館 B1 入 口前に展示しています。

風が塾生たちの読書の声を吹き送ってくる。 松の古木や扱いにくいやくざ石を配置して庭園を築いた。 (『三島中洲詩全釈』 第 巻 間近かの市中の喧騒には 石川忠久より

編集後記

「季報」108号をお届けします。

計なことであった。

今は、虎の毛皮の敷物に坐って、

詩の本を読む身である。

清らかな机と明るい窓のわが書斎は、

気づかない。とぎれとぎれに、

一松学舎の建物へと続いている。

わが身を東京の街中に置き、

風送唔咿斷續吹 不知咫尺市聲聒

山の中へ引っ込まなければならないというものではない。十年近く役人暮らしをしたが、思えば、やらずもがなの余

書斎を構えている。官を辞し、世事から身を引いた生活をするからといって、

今号は夏・秋合併号で発行しました。コロナ禍にお いて、秋セメスターになり、ようやく本学の大学院生、 大学生、科目等履修生が館内利用できるようになりま した。一日も早く通常開館ができるよう祈ります。オ ンライン授業を展開されている中、ご寄稿いただきま した諸先生方にお礼申し上げます。

 $(S \cdot A)$

二松学舎大学附属図書館

第 108 号

発行日 2020年11月15日 行 二松学舎大学附属図書館

九段図書館 〒 102-8336 東京都千代田区三番町 6-16

電話:03-3263-6364

柏図書館

電話:04-7191-8758

印刷所 株式会社 サンセイ 電話:03-5227-8333